

山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

scopic measure #17: マヤ・エリン・マスダ

Ecologies of Closeness 痛みが他者でなくなる時

2025年7月5日(土)～11月2日(日) 10:00～19:00 入場無料

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

新進気鋭のアーティストを紹介する展示シリーズ

マヤ・エリン・マスダのインスタレーションを公開

山口情報芸術センター [YCAM] では、気鋭のアーティストのインスタレーションなどを紹介する展示シリーズ「scopic measure」の第17弾として、ベルリンを拠点に活動するアーティストのマヤ・エリン・マスダによる新作を含む展覧会「Ecologies of Closeness 痛みが他者でなくなる時」を開催します。マスダは、映像や液体を用いた作品を通じて、人間中心の社会が自然や動植物に与えてきた影響を問い直し、「クィア・エコロジー」という視点から、国家が生命や出生を管理する「生政治」とテクノロジーの関係を探求しています。本展では、放射線による皮膚の変容や、汚染に晒された動物や土地に起こる変化にまつわるリサーチをもとに制作した新作《皮膚の中の惑星 / All Small Fragments of You》と《証言者たち / Plastic Ocean》と過去作《Pour Your Body Out》(2023年)をYCAMの展示空間に合わせて構成、展示します。作品を通して、目に見えにくい「毒性」と共に生きざるを得ない現実を浮かび上がらせ、そのような環境を生み出した人間と、その影響を受けるさまざまな存在との間に生じる、奇妙で「親密な」関係性を浮かび上がらせます。ぜひこの機会にご参加ください。



《Pour Your Body Out》(2023-2025年)
撮影: 板倉 勇人 (YCAM)



《Pour Your Body Out》(2023年、京都芸術センター)
撮影: Takuya Matsumi

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

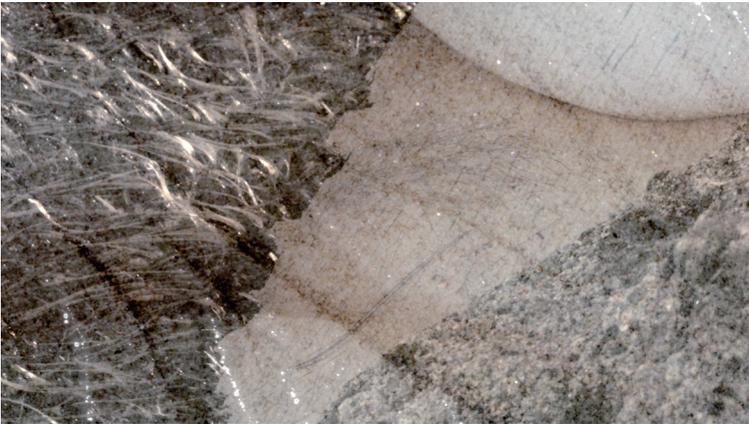
[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課
〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

“視覚の尺度”を拓く scopic measure 第17弾



《証言者たち / Plastic Ocean》2025年
フルHD シングルチャンネル・ビデオ、カラー、13分41秒

YCAMが2007年から実施する、scopic measureは、気鋭のアーティストの作品やアートの地平を切り開く挑戦的なプロジェクトを紹介する展示シリーズです。scopic = 「見ること / 視覚 / 観察」、measure = 「尺度」「基準」「測定」つまり「視覚的な尺度 / 観察のための測定」という造語によるこの展示シリーズでは、これまで、アーティストの平川紀道（2007年）、アートユニットのnewClear（2009年）、黒川良一（2011年）など、今後の活躍が期待されるアーティストをインスタレーション形式で紹介してきました。シリーズ第17弾となるscopic measureではマヤ・エリン・マスダによる作品を紹介します。

マスダは、ベルリン、ロンドン、東京を拠点に活動するアーティスト兼リサーチャーです。今年9月まではドイツ・ベルリン芸術大学にてクィア・エコロジーを研究しつつ、9月からはオランダアイトンフォーヘン工科大学で研究員として勤務しています。これまで日本国内外でグループ展に参加し、2024年にはイギリスで個展を開催しました。本展は、日本で初めてとなるマスダの展覧会です。マスダは、工学系の学部での学びをきっかけにジェンダーやテクノロジーへの関心を深め、人間が「非人間」を抑圧する構造や、それを当然のものとして理想化するテクノロジーの在り方に疑問を抱きました。こうした問題意識から、テクノロジーの別の可能性を探る手段としてメディア・アートに取り組んでいます。

■ これまでに実施した展示シリーズ

- scopic measure#1
山川K. 尚子《KODAMA》
2007年2月1日（木）～7月2日（月）
- scopic measure#2
MaSS dev. 《MaSS 2007 ver.》
2007年4月4日（水）～11月5日（月）
- scopic measure#3
江渡浩一郎《Modulobe》
2007年4月28日（土）～12月27日（木）
- scopic measure#4
平川紀道《DriftNet / a plaything for the great observers at rest》
2007年5月9日（水）～7月12日（木）
- scopic measure#5
比嘉了《VP3L》
2007年7月14日（土）～2008年3月31日（月）
- scopic measure#6
平川紀道《DriftNet / a plaything for the great observers at rest》
2007年5月9日（水）～7月12日（木）
- scopic measure#7
渡邊朋也《IAMTVTUNERINTERFACE》
2008年4月18日（金）～6月15日（日）
- scopic measure#8
newClear《skinslides》
2009年4月25日（土）～8月31日（月）
- scopic measure#9
高嶋晋一《Pascal pass scale》
2009年4月25日（土）～8月31日（月）
- scopic measure#11
真鍋大度《electric stimulus to face》
2009年4月25日（土）～8月31日（月）
- scopic measure#13
黒川良一《rheo: 5 horizons》
2011年9月17日（土）～11月13日（日）
- scopic measure#14
Goh Uozumi《observer n》
2009年4月25日（土）～8月31日（月）
- scopic measure#15
ライゾマティクス《pulse 3.0》
2013年1月27日（日）～3月24日（日）
- scopic measure#16
細井美裕《Lenna》
2019年7月20日（土）～11月17日（日）

「毒性」「痛み」という視点から生じうる新たな関係構築の可能性



マヤ・エリン・マスダ《皮膚の中の惑星／All Small Fragments of You》2025年
フルHDシングルチャンネル・ビデオ、カラー、12分10秒

本展タイトル「Ecologies of Closeness 痛みが他者でなくなるとき」には、異なる存在の間に生まれる新たな関係性への希求が込められています。「Ecologies of Closeness（親密さの生態系）」は、人間と非人間（動物、植物、菌類、テクノロジーなど）との関係を見直すことを促す言葉であり、「痛みが他者でなくなるとき」は、痛みを通じて結びつく瞬間、あるいは他者の痛みを自らのものとして感じざるを得ないほど強く接続している状態を示唆します。

本展では、新作映像2点と過去作のインスタレーション1点を展示します。新作《皮膚の中の惑星／All Small Fragments of You》は、登場人物が既存のジェンダー規範から逃れ、家族や継承の在り方を問い直す様子を描き出しています。新作《証言者たち／Plastic Ocean》は、福島県の元ヒラメ養殖場で撮影されたもので、人間・自然・人工物の境界が溶け合う光景を通じ、「証言」の不安定さと新たな共同体の可能性を静かに映し出します。過去作《Pour Your Body Out》は2025年版としてアップデートされ、YCAMの展示空間に合わせて構成・展示されます。

会期中は、作品における音などに着目し、「聴覚」「触覚」など分断された感覚を横断するワークショップをはじめ、展覧会のテーマを多角的に捉えるイベントも開催します。

■ マヤ・エリン・マスダ / Maya Erin Masuda



撮影：板倉勇人 (YCAM)

アーティスト/リサーチャー。ベルリン・東京・ロンドンを拠点に活動。現在ドイツのベルリン芸術大学にてクィア・エコロジーを研究。近年の個展に「Sleep, Lick, Leak, Deep ...」(大和日英基金、イギリス、2024年)。主な近年のグループ展に「INTERFACE」(Somers Gallery、イギリス、2024年)、「More Strange Things」(Silent Green、ドイツ、2024年)、「ままならなさを生きるからだ Bodies / Multiplicitous」(クマ財団ギャラリー、東京、2023年)、「Ground Zero」(京都芸術センター、2023年)など。

開催概要

scopic measure #17

マヤ・エリン・マスダ

Ecologies of Closeness 痛みが他者でなくなる時

2025年7月5日(土)～11月2日(日) 10:00～19:00

休館日:火曜(祝日の場合は翌日)

入場無料

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

主催:山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援:山口市教育委員会

助成:令和7年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

協力:株式会社SUSTAINABLE JAPAN

技術協力:YCAM InterLab

企画制作:山口情報芸術センター [YCAM]

関連イベント

ギャラリーツアー

2025年9月28日(日)、10月12日(日)、11月2日(日)

各回 13:00-14:00

会場:スタジオB

定員:20名 参加無料(要申込)※先着順

ワークショップ「あわいまあい」

2025年11月1日(土) 13:00-16:00

集合場所:スタジオB

定員:10名 対象:10歳以上

音と皮膚感覚に焦点をあてた体験を言葉で共有し合います

サンカクトーク

2025年9月27日(土) 13:00-15:00

集合場所:スタジオB

定員:20名 対象:13歳以上

作品を鑑賞し考えたことを、参加者同士で共有します

同時開催展示

オロン・カツ+イオナット・ズール+スティーブ・ベリック

PROJECT MRT

Natureless Solution

/太陽と土と糞から切り離れたテクノロジーの再考

YCAMとのコラボレーション

2025年10月11日(土)～2月23日(月・祝) 10:00-19:00

会場:ホワイエ、中庭、2階ギャラリー

入場無料

■ 申込方法

ウェブサイトからお申し込みください。

ウェブサイト:

www.ycam.jp

同時開催イベント

YCAM オープンラボ2025

2025年10月17日(金)、10月18日(土)、10月19日(日)

各 13:00~18:00

定員:50名

集合場所:スタジオA 参加無料 申込不要(先着順)

言語:日本語・英語 同時通訳有り

登壇:ケイリー・キャロブ(食料主権・食文化研究者)、羽生雄毅(インテグリカルチャー株式会社)、メレディス・サトラー(Cal Poly SLO 助教)、岩崎秀雄(早稲田大学教授)、オロン・カツ、イオナット・ズール、スティーブ・ベリック、マヤ・エリン・マスダほか

